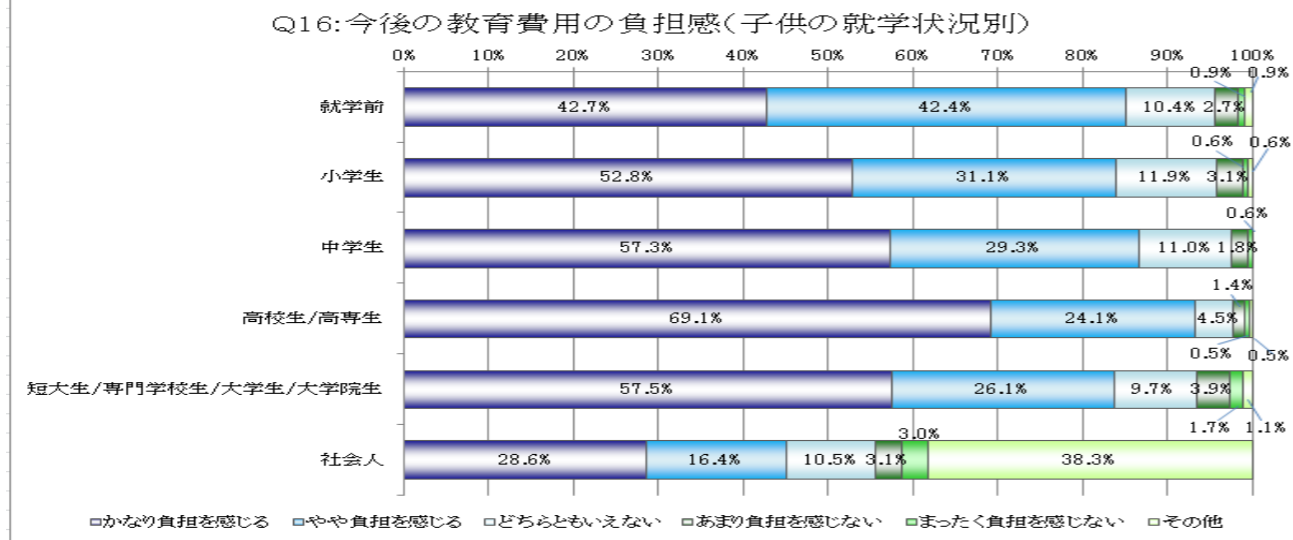


# 「教育費や奨学金制度に関するアンケート」(最終版) 結果の特徴

日本生活協同組合連合会・総合運営本部・政策企画部

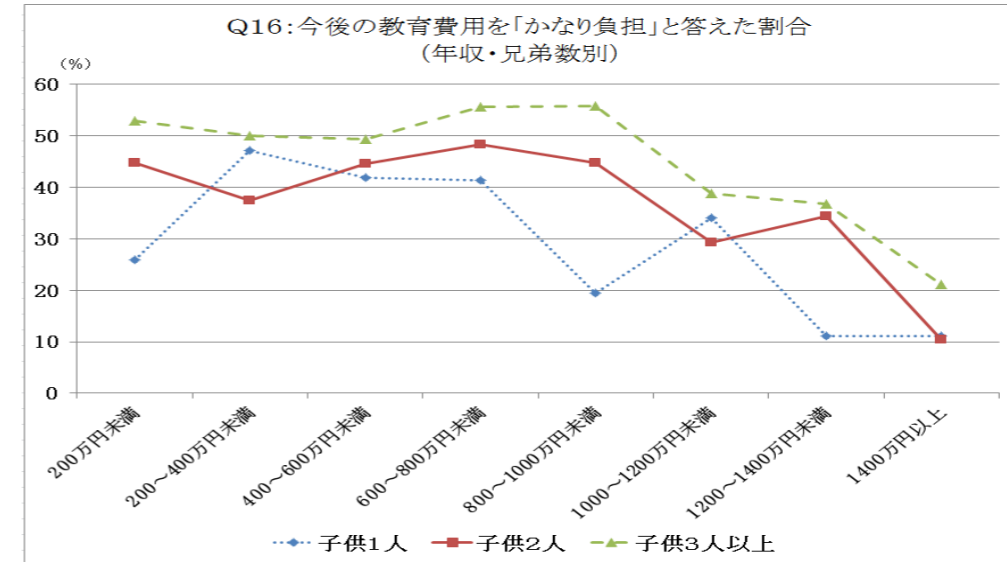
## 1. 大学生までの子どもをもつ親の8割以上が今後の子どもの教育費に負担感を感じている。

子どもの教育費用の負担について、「今後の負担感」を上の子の就学状況別に聞いたところ、「短大生/専門学校生/大学生/大学院生」以下の子どもを持つ場合は「かなり負担を感じる」「やや負担を感じる」が合わせて80%を超えた。特に、「高校生/高専生」の場合、90%以上が負担を感じているという結果となった。



## 2. 兄弟数が多くなると、今後の教育費を「かなり負担」に感じる傾向。

子どもの教育費用の今後の負担について、兄弟数が多くなると年収に関係なく「かなり負担を感じる」と答える割合が高くなる。



## 3. 大学進学費用や奨学金をめぐる実情を一番知らないのは、上の子が「小学生」の親。

大学進学費用や奨学金をめぐる実情について、「知っている」か「知らない」かを上の子の就学状況別に聞いたところ、各項目とも、上の子が「小学生」の回答者で「知らない」と回答する割合が高い傾向にあった。一方、「短大生/専門学校生/大学生/大学院生」の場合、「知らない」と回答する割合が最も低くなった。

Q11: 奨学金に関連した情報について、「知らない」と答えた割合(上の子の就学状況別)

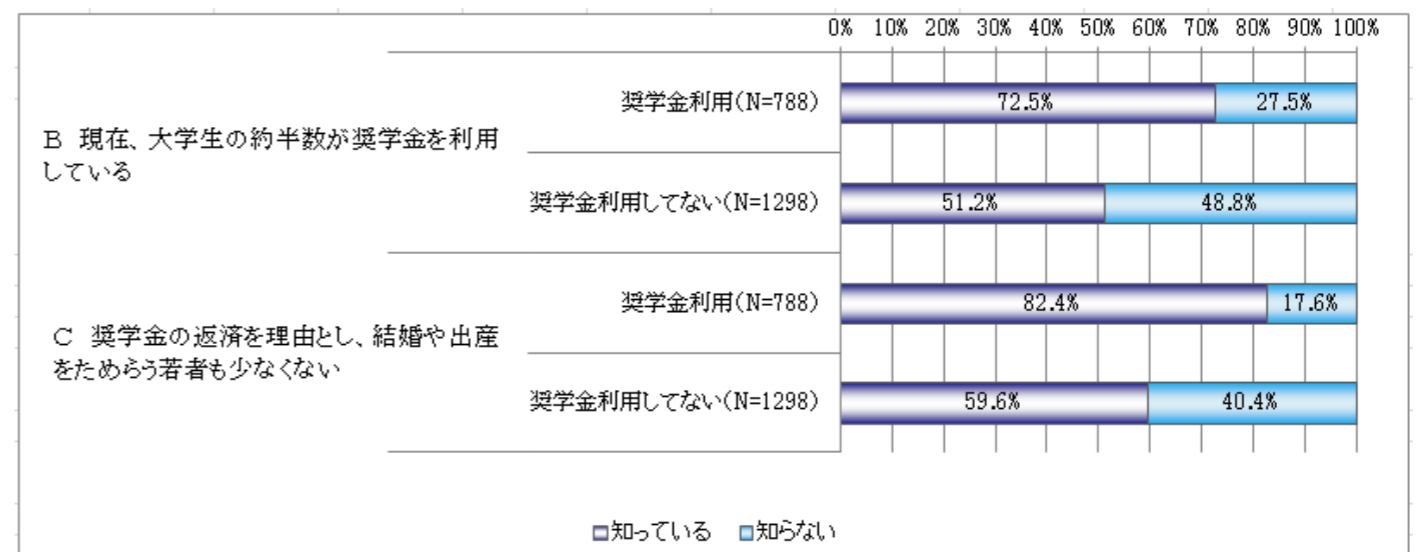
	就学前 (N=343)	小学生 (N=359)	中学生 (N=165)	高校生/高専生 (N=227)	短大生/専門学校生/大学生/大学院生 (N=366)	社会人 (N=1675)
A 先進諸国の中で、大学の学費が高額で、かつ公的な給付型奨学金(返済する必要がない奨学金)制度がないのは日本だけである	61.5%	64.9%	61.8%	52.4%	41.0%	54.9%
B 現在、大学生の約半数が奨学金を利用している	54.8%	64.9%	56.4%	33.5%	25.1%	44.2%
C 奨学金の返済を理由とし、結婚や出産をためらう若者も少なくない	32.9%	37.3%	34.5%	26.4%	21.0%	31.0%
D 奨学金が返済できない場合、親や親類に返済義務が及ぶことがある	41.7%	42.1%	37.0%	31.3%	21.3%	35.6%
E 理系学部/大学の大学生は約3~4割が大学院に進学、6年制の薬学部、大学卒業後さらに2~3年の法科大学院など、大学以降の在学期間は4年標準ではなく、6~7年へと長期化が進んでいる	48.4%	56.8%	47.9%	35.7%	24.9%	34.3%
F 財務省の国立大学・収入構造改革の方針にそって、文部科学省が出した試算では、2031年(15年後)には国立大学の授業料は現在より約40万円近く値上げされ、年間約93万円になると言われている	85.4%	90.3%	89.1%	85.9%	76.0%	84.0%

( ) [青色]: 項目の中で最も割合が高かった年代、[水色]: 項目の中で2番目に割合が高かった年代

## 4. 子どもが奨学金を利用しているか否かで、実情の認知に大きな差が出る項目も。

B「現在、大学生の約半数が奨学金を利用している」とC「奨学金の返済を理由とし、結婚や出産をためらう若者も少なくない」は、子どもが奨学金を利用している(していた)回答者の方が、そうではない回答者と比べて「知っている」と回答した割合が20%以上高くなっている。

Q11: 奨学金に関連した情報に関する認知(子どもの奨学金利用別)

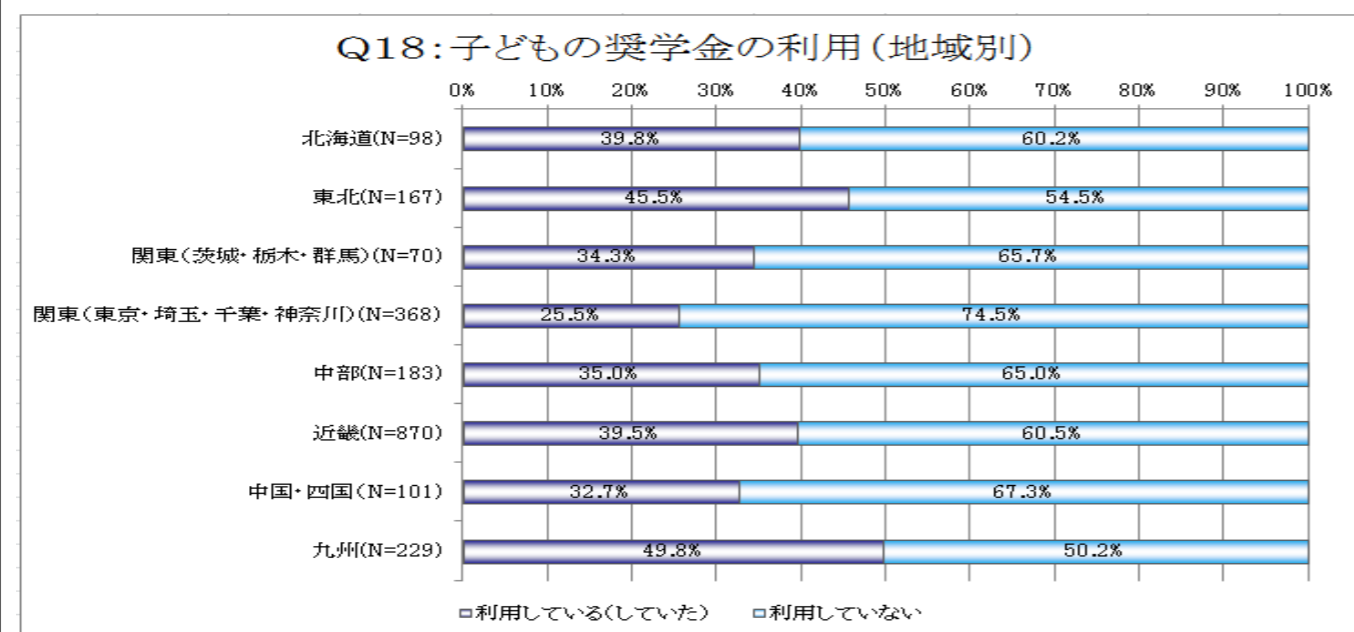


# 「教育費や奨学金制度に関するアンケート」(最終版) 結果の特徴

日本生活協同組合連合会・総合運営本部・政策企画部

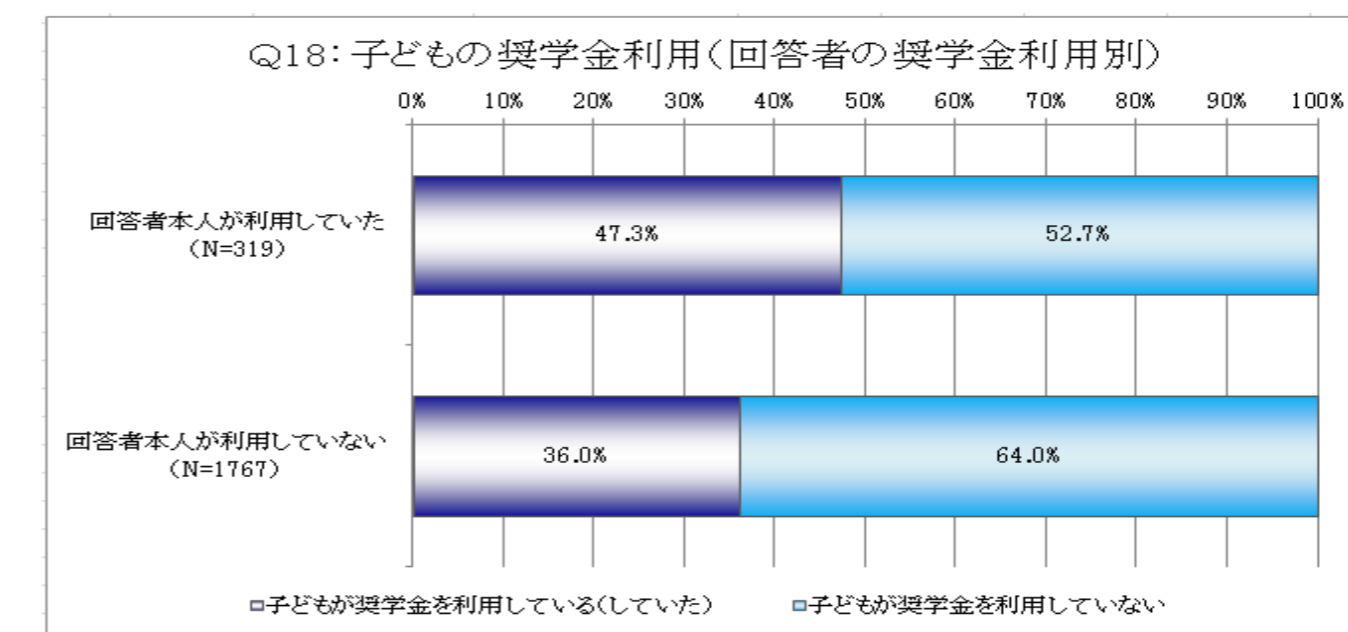
## 5. 子どもの奨学金の利用割合は、地域間の格差がきわめて大きい。首都圏が低く、九州は半数。

子どもの奨学金の利用と借りた理由を地域別にみたところ、首都圏(東京・埼玉・千葉・神奈川)以外の地域では奨学金利用の割合が高くなる傾向がみられた。



## 6. 本人が奨学金を利用していた方が、子どもも奨学金を利用する傾向にある。

子どもの奨学金の利用状況を回答者(本人)の利用別に見たところ、回答者本人が利用していた方が子どもも奨学金を利用する傾向にあることがわかった。



## 7. 回答者の半数以上が自由記入欄に意見を記載。きわめて高い関心が寄せられている。

回答者 3,549 人のうち、1,864 人(回答者の 53%)が自由記入欄に意見を記載。全国組合員意識調査では自由記入欄への記入が約 3 割であることと比較し、教育費や奨学金制度に関しては高い関心が寄せられていると言える。

### 【特徴的な声】

- ・ 諸外国のようにしっかりと勉強しないと、卒業できないような制度なら給付型の奨学金もよいと思う。税金を使うのなら、有意義に使ってほしい(40~44歳)
- ・ 給付が無理なら、せめて無利子の奨学金を希望者には皆貸してほしい(50~54歳)
- ・ 奨学金は全て無利子化返済の必要のないものにすべき(30~34歳)
- ・ 借りたものは返さなければならないが、就職難などでまともな職業につけない人もいる。出世払い的な方法で返済期間の猶予など、返済しやすい方法にしてほしい(50~54歳)
- ・ 現在、夫婦で合わせて800万近くの奨学金の返済があり、月々5万円の返済はなかなか苦しいものを感じている。しかし、大学に行かねば就職口もなかった世代であり必要経費だったと思う(25~29歳)
- ・ 自分で奨学金を借りましたが卒業しての返済は精神的にしんどかったです。結婚の際に300万円位の返済があることを相手に伝え理解してもらおう事も精神的に負担を感じました。特に出産を理由に働けなくなる時の返済をどうするか、結婚相手をお願いしなくてはいけないのは正直嫌な気持ちでした(40~44歳)
- ・ 給料が安く、本人が返すのは無理なので、親が返している(60~64歳)
- ・ 兄弟姉妹と学校在学期間が重なるため、産まれた時から大学に入る予定で貯蓄をしてきたが、奨学金も借りていかないと学費だけでなく親元を離れて生活しなければならず金額がかさむ(55~59歳)
- ・ 来春兄弟共に卒業ですが、クラブ等もしていたので、余りバイトが出来ず、奨学金に頼って就学した。就職も決まったが、返済は月々3万程になる。本人だけに返済させるのは、可哀想なので、助けて行こうと思うが、二人へ5~6万負担となると、定年の主人やパートの私は、きっと老後破綻するのではと、不安になる(50~54歳)
- ・ 大学の授業料が、昔に比べてかなり高くなっていると感じる。親の収入で、子供の進路が狭くならないようにと、プレッシャーを感じている(35~39歳)
- ・ 高校では授業料以外に思いのほかかかり、大学でも入試費用から授業料など高すぎる(55~59歳)